

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：令和6年7月16日(火)
(2024年)

地域企業紹介 89

株式会社リガルジョイント

代表取締役 小田中奈穂美 氏

「報・連・相」は社長からを徹底し 全社が一枚岩に！」

流量計やホース用継手をはじめとする流体関連機器のトータルメーカーである株式会社リガルジョイントの小田中奈穂美社長を相模原市南区大野台の本社工場に訪ねました。

昭和48年、小田中社長の父である稲場久二男氏によって創業された同社は、今年創立51年目を迎える。現在、「流体機器事業」「環境事業（環境機器・熱交換器）」及び「受託製造事業」を事業の柱としている。流体機器事業では、ロングセラー製品である「カンタッチ」（ホース用継手）をはじめ、流量計・集合配管「マニホールド」、水フィルターや電磁弁など多岐にわたり、半導体製造装置やPCスクリーンといった各種製造装置の冷却ライン配管などで使われている。多様な設置環境に対応しなければならない継手は、製造ライン内における配管部の省スペース化も考慮しなければならない。現場のニーズを知りつくしている同社は独自の技術とノウハウで多くの継手部品の小型化をはじめ、部品点数や設置工数の削減、樹脂型の継手では射出成型による大量生産で低価格化も果たした。新分野進出として家庭用燃料電池関連の部品開発にも挑み、高効率熱交換器「SCFチューブ」を利用し「熱エネルギー」の有効利用を実現。この技術を応用し、既存熱交換器のダウンサイジングによる省資源化、省エネ化を可能にした。また、産学官連携事業である「SIC燃料電池研究会」では家庭用燃料電池システム「エネファーム」の共同開発事業に参画し、熱交換器分野で重要な役割を果たすなどして、これまでに数多くの「技術賞」を受けた。受託事業では、①ユニット組み立て ②パイプ加工 ③各種溶接などの複合工程を経る加工に対応するため、独自の生産加工ネットワークでワンストップサービスを提供する。それを可能にしているのが350社を超える協力会社の存在だ。創業時、当時としては珍しい「工場アパート」を敷地内に開設し、板金・切削・曲げなどの金属加工を得意とする職人衆を集い、様々なニーズに対応できる体制を構築。やがて、このスタイルが現在の「ものづくりネットワーク」の土台となっていく。創業からしばらくの間は大手メーカーの下請け業者として計装配管事業を行っていたが、半導体は“変動体”と揶揄されるくらい市場の変動が激しく、「下請けのままでは夢は語れない」との思いから、「小さくてもいいからメーカーになろう」と自社製品開発に邁進、一社依存からの脱却を目指した。今では大手メーカーをはじめ、300社を超える顧客を持つ“流体機器メーカー”へと着実に進化を遂げてきた。

令和4年12月に同社の代表取締役に就任した小田中社長は、幼少の頃から自宅に隣接した「工場アパート」で働く職人さんと共に、常に「ものづくり」のにおいがする環境で育った。型にとられない父の教育方針の

代表取締役：小田中 奈穂美（おだなか なおみ）

所在地：神奈川県相模原市南区大野台 1-9-49

従業員数：62名

事業内容：流体制御機器及び継手類の開発・製造・販売、
環境改善機器の販売、各種配管、精密板金、パイプ加工、
各種溶接、熱交換器の開発・製造・販売

URL：<https://rgl.co.jp/>

もと、「何でも自由にやらせてもらえたが、『欲しいものがあれば自分で作れ』というのを当たり前を受け止めていた。」と、小学生の頃を振り返る。そのせいか、小さい頃からお人形の洋服は自分でつくっていたのだからか。学生時代は、海外で活躍したいとの思いから外国語学部に進んだ。一時はグローバルな職種も視野に入れていたが、専門職として仕事に従事することを考えた末に、歯科技工士養成学校に入学、そこで知り合ったご主人と結婚し2児の母に。結婚後は、個人事業主としてEコマース事業を展開、20年間のキャリアを持つ。趣味は一人旅や読書。温泉や遺跡を巡り、自分と向き合う時間を大切にしているのだという。

就任当時を振り返ると、コロナ禍でサプライチェーンが根詰まりを起し、シリコンサイクルに加え部品サイクルも悪化、どん底状態からのスタートだったという。社員も自分の部署を守るのに精一杯で、他の部署と連携する余裕がなかったそうだ。小田中社長は、組織が縦割りになってしまっている状態に何とか横串を通すため、50周年記念事業に取り組み、将来に向けて全社が一枚岩になれるようにしたいと考えた。若手社員を中心にプロジェクトチームを立ち上げ、ボトムアップ方式で進めた。結果は、役割分担や期限などを明確にしたことで、主体的でお互いを気遣い合う“新しいチーム体制”の構築につながったという。

就任から一年半、社内のコミュニケーションをより一層円滑なものにするために、社長室をミーティングルームに変更、「報告」「連絡」「相談」は社長から”というスタイルで社員に歩み寄ることに徹している。困ったことはないか、何か欲しいものはないかを、直接社員に聞いて回ることもあるそうだ。そうすると、しだいに社員の方からも色々なことを話してくれるようになるのだと小田中社長。課題と捉えた声についてはすぐさま実行に移さなければならないと、子育てや介護をする社員が「時短勤務制」を申請・利用しても本人のキャリアには影響しないように就業規定を見直したり、有給休暇を増やすなどの「人事制度」の改革に踏み込んだ。社員にとっての“心理的安全性”を高め、より働きがいのある職場環境の構築を今後も進めていく。

そんな小田中社長は、「リガルジョイントを支えてくださっている協力会社の皆様や従業員に恩返しをする思いで、次の50年も社会に必要とされる“100年企業”を目指して、更なる発展に寄与していきたい」と語る。半導体関連業界で「メーカー」としての地位を確立し、全社一枚岩となって突き進むリガルジョイント、これからも“新たな製品開発”で人や産業、技術、そして時代をつなぐ(=joint)企業として社会に大きく貢献することでしょう。

SDGsに取り組むSIC ～パートナーシップを大切に、足元からできることを！～

世界中でSDGs(持続可能な開発目標)に向けた取組が広がる中、SICも日々のインキュベーション事業の推進とともに、掲げたゴールに向けて活動しています。

SICは令和5年5月31日にさがみはらSDGsパートナー、令和5年11月27日にかながわSDGsパートナーとして登録されました。それぞれ、「1 貧困をなくそう」、「3 すべての人に健康と福祉を」、「8 働きがいも経済成長も」、「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「11 住み続けられるまちづくりを」、「14 海の豊かさを守ろう」、「15 陸の豊かさを守ろう」の7つの目標について重点的に取り組んでいます。

SICが取り組みを進める中で、市内障害福祉サービス事業所様との連携を欠かすことはできません。敷地内の環境整備では除草作業

や花壇の管理を行っています。ハンディキャップのある方や生活に困窮する方たちが作った雑貨やコーヒー豆、野菜の販売を行ったり、市内社会福祉団体様主催の「障害福祉サービス事業者職員向け『工賃アップセミナー』」ではSICのスタッフが講師として事例の紹介を行いました。福祉団体様等との連携を希望される事業者様には、SICが個別の引き合わせをコーディネートして、パートナーの輪を広げています。



SIC内で販売した雑貨(上)とコーヒー

SICスタッフの発案から「100%再生可能エネルギー」を活用した気候変動の抑制にも貢献しています。太陽光パネルとポータブル蓄電池、モバイルバッテリーをSICで購入。屋上で充電した電力はモバイルバッテリーに分けて、館内に設置しているスピーカーの電源として利用し、入居企業の皆様への貸し出しも行っています。



SICで購入した太陽光パネルとポータブル蓄電池

SDGsは「世界中の誰もが幸せに暮らし続けることができる世界の実現」を目指し、一人ひとりができることから取り組んでいくものです。SICの本業でもある中小・ベンチャー企業の新技術・新製品開発への支援活動は「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」と直結しています。さらに自治体や産業支援機関、金融機関との連携による入居企業・地域の研究開発の後押しは幅広い展開へと広がっています。足元からの行動とより良いパートナーシップを育みながら、SICは未来志向の活動を続けてまいります。



除草作業(上)ときれいになった花壇(右)



労働力不足や原材料費など原価の高騰に悩む中小企業にとって、デジタルトランスフォーメーション (DX) による生産性向上は、喫緊の課題となっています。今回を含めて 3 回の連載では、経済産業省の発表資料などを軸に、現在、中小企業支援機関において DX 推進に携わる筆者の経験を交え、DX の本質から利活用の具体策を紹介していきます。

【そもそも DX とは】

多くの人々が DX を、紙の書類をデジタルにすることや、手作業を情報システムに置き換えることだと考えがちですが、本当の DX はそれだけではありません。

DX の真の目的は、会社をスピーディーで柔軟なものに変えることです。これにより、急な市場の変化にも素早く対応できるようになり、顧客にとって新しい価値を生み出すことができます。たとえば、インターネットを使って新しい顧客層にアプローチしたり、データを分析して顧客のニーズを先読みしたりすることが含まれます。

重要なのは、「変革」です。単に新しいツールを導入するだけではなく、顧客により良いサービスを提供するために、会社の業務プロセスも見直すことを意味します。社員全員がこの変化を理解し、受け入れることが成功への鍵となります。

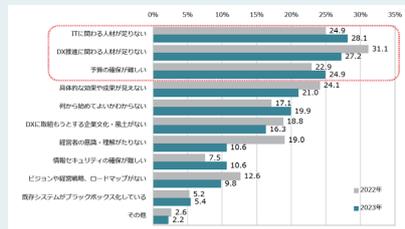
【DX に取り組んでいる中小企業はわずか 15% 弱】

2023 年の中小機構の調査 (注) によると、日本の中小企業の中で DX に本格的に取り組んでいるのは約 15% 未満という結果が出ています。これは、中小企業が DX の重要性を理解しつつも、実際にそれを推進する段階には、まだ多くの企業が至っていないことを示しています。

この調査からは、中小企業が DX に取り組むに当たっての課題も明らかになりました。課題の上位は、「IT に関わる人材が足りない」が 28.1% で、前回調査からは 3.2 ポイント増加しています。次いで「DX 推進に関わる人材が足りない」が 27.2%、「予算の確保が難しい」が 24.9% という順になっています。

これらのデータから、中小企業にとって、IT の専門知識の不足や、初期投資のための資金調達が困難であることが、DX の障壁となっていることが推測できます。

図表. DX に取り組むに当たっての課題 (n=1,000 複数回答)



(注) 出典 中小企業基盤整備機構「中小企業の DX 推進に関する調査 (2023 年)」

【安価なクラウドサービスや生成 AI などの出現で見た解決の方向性】

最近のテクノロジーの進歩は、中小企業に大きな希望を与えています。特にクラウドサービスや生成 AI の普及は、これまでの大きな障壁であったコストと専門知識の問題を大幅に軽減しています。

クラウドサービスを利用することで、企業は重い初期投資をせずに済みます。また、生成 AI は、従来は専門の技術者を必要とした作業を自動化し、より効率的にすることで、中小企業の人手不足を補い、競争力を維持する手助けをします。

次回以降で、これらテクノロジーを活用しつつ、中小企業の特徴を活かしながら、DX を推進するための具体的な方法を探っていきます。



一般社団法人首都圏産業活性化協会
デジタルビジネスプロデューサー
小川経営研究所 代表
中小企業診断士、ITコーディネータ
小川 直樹 氏

大手電機メーカーにて、研究開発、システムエンジニア、営業マーケティングを経て独立。中小企業診断士として現場に定着するまでの継続支援をモットーに、営業力向上の仕組みづくり、IT 導入による業務改善、Web 活用による集客力アップの提案を行っている。

一般社団法人地域マーケティング推進協議会理事、平成 29 年度中小企業経営診断シンポジウム第三分科会最優秀賞受賞。

AQUA PIZZA (アクアピッツァ)

新昭和橋から車で5分、厚木の有名店 AQUA PIZZAにお邪魔しました。

丘に建つ店舗には、眺望に富んだ大きな窓に面したテーブル席と屋外のテラス席があり、神奈川の水源相模川や緑豊かな相模原台地が一望できます。

今回は前菜付きのランチセットから定番を中心に注文しました。ピザはもちろんグラタンなど焼き物も石窯で焼いているため、グリルとは違う味わいが楽しめます。またピザ生地は独自の配合で作られており、薄めの生地ながらも、もっちりとした食感が楽しめます。「テイクアウトの用意はあるが、ぜひ出来立てを味わってほしい」と岡崎シェフ談。メニューは年 6 回変わり、いつ訪れても季節を感じます。

旬を意識した料理とともに、相模川のようにゆったりとした時間をお過ごしください。(佐藤)



【住所】神奈川県厚木市上依知1605-1

【TEL】046-246-3676

【営業時間】<ランチ>11:30-15:00 (L.O14:00)、

<ディナー>17:30-21:00 (L.O20:00)

※土日祝は予約をおすすめします。

【休日】月曜日・火曜日 (ただし月曜日が祝日の場合は、ランチのみ営業)

【URL】<https://aquapizza.gorp.jp/>

【Instagram】<https://www.instagram.com/aquapizza7/>





子どもたちが心を込めて 作った商品を販売します！



日時 令和6年(2024年)8月11日(日)
10:45～12:15(予定) ※売り切れ次第終了

販売場所 アリオ橋本店 アクアガーデン(JR・京王線橋本駅 徒歩5分)

子どもアントレとは？

「さがみはら子どもアントレプレナー体験事業」は小学生を対象に、初めて出会う仲間と「会社設立、事業計画書の作成、融資交渉、仕入・製造、販売、決算」という会社経営のプロセスを疑似体験するものです。

協賛社(者)の皆さんが子どもアントレを支えています。

本事業は、趣意にご賛同くださった多くの皆様からご協賛をいただいています。無限の可能性にあふれた子どもたちの育成に、皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

【協賛金】1口1万円

【後援】相模原市、相模原市教育委員会、
相模原商工会議所、(公財)相模原市
産業振興財団

【問い合わせ先】さがみはら子どもアントレプレナー
体験事業実行委員会 事務局
担当：上野

詳細はこちら



詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.sic-sagamihara.jp>

令和6年7月時点 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

7月29日(月)	The HINT66 節税って何のため？
8月6日(火)、8月9日(金) ～8月11日(日)	さがみはら子どもアントレ
8月20日(火)～9月10日(火)	事業の中核を担うマネジメント人材の育成と 組織力強化の進め方
9月2日(月)	The HINT67 人材定着(仮)

入居企業を募集しています。

SIC空室情報 (令和6年7月16日 現在) ※お気軽にお問い合わせください。

部屋	空室数	賃料/月額 (共益費込・消費税込)
SIC-1 Startup Lab. ○スモールオフィスA (23.6㎡)	1	86,570円
○スモールオフィスB (17.3㎡)	2	70,620円

最新の情報はウェブサイトをご確認ください。

SIC 経営者交流会を行いました！



7月9日 SIC 入居企業の経営者や責任者の方向けの経営者交流会を開催しました！

当日は名刺交換や自社の PR スピーチ等を行いました。新たなつながりが生まれるなど、良いきっかけづくりとなりました。

中小企業大学校研修サテライト・ゼミ 事業の中核を担うマネジメント 人材の育成と組織力強化の進め方



マネジメント人材の育成に必要な仕組みづくり(人材育成計画、人事評価制度、エンゲージメント、コーチングなど)について、グループワークや事例紹介を交えて学びます。

【期間】令和6年8月20日(火)・8月21日(水)・
9月10日(火)

【会場】サン・エールさがみはら2階・第1研修室

【対象】経営幹部、経営幹部候補者など(部門長
などの上位管理職を含む)

【内容】

第1回	第2回	第3回
・マネジメント人材の必要性・重要性 ・組織の理念、方向性の明確化	・マネジメント人材の発掘・育成の仕組みづくり ・マネジメント人材の評価制度のあり方	・働きがいのある職場のつくり方 ・人材育成の理論と実践のポイント

詳細はこちら



編集後記

7月26日からパリ五輪が始まります。「オリンピックで重要なことは、勝つことではなく参加することである」とは近代五輪の父ピエール・ド・クーベルタンの言葉です。この言葉は、「まずは触れること」についても後押ししていると感じます。私は専門家コラムを読み、生成AIが気になりますが、皆さんは何か始めたいことがありますか？



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <https://www.sic-sagamihara.jp/>